



図書館だより

目次

キャンパス統合に向けて	——白杵 陽	1
特集：さようなら西生田図書館		
西生田図書館三十周年および閉館にあたって	——飯山 智子	2
西生田図書館との出会い	——中西 裕二	4
西生田図書館の思い出	——黒岩 亮子	4
日本女子大学西生田図書館関係略年表(2010.10～2020.3)		5
180万人の手から手へ	——吉原 三紀子	7
2020年度夏期スクーリング期間中の図書館(目白)利用について	——中澤 啓子	8



2020年秋の西生田図書館

キャンパス統合に向けて

白杵 陽

2021(令和3)年4月から西生田キャンパスにある人間社会学部が目白キャンパスに移ってきます。キャンパス統合に伴いまして、西生田キャンパスの図書館は保存書庫として運営されることとなります。皆さんが利用される図書館は目白キャンパスのみとなります。

キャンパス統合を機に西生田キャンパスの歴史を簡単に振り返ってみましょう。1931(昭和6)年頃より、目白の地は手狭となったため、新天地を求める動きが本格化したとのことです。1934(昭和9)年、日本女子大学校の移転候補地として神奈川県川崎市西生田に決定しました。アジア・太平洋戦争が激しくなった1943(昭和18)年、国文学部と英文学部の全学年が西生田校舎に移転しました。

1945(昭和20)年に終戦を迎え、日本女子大学校は1948(昭和23)年、学制改革によって新制大学として発足します。それに伴って、家政学部・文学部が設置され、1949(昭和24)年に日本女子大学通信教育部が開講されました。

1990(平成2)年には西生田キャンパスに人間社会学部が設置されました。さらに1992(平成4)年、目白キャンパスに理学部が新設されて、以来、日本女子大学は4学部15学科と大学院各研究科という体制で現在に至っています。

西生田キャンパスにある附属中高等学校、講堂、人間社会学部に至る道は、鬱蒼たる森の自然豊かな環境の中にあります。実はこの森は「水田記念公園」と名づけられています。日本女子大学校で教鞭をとられた故・水田米(1901～87年)名誉教授を記念したものです。同名誉教授はアメリカ合衆国で生まれ、ミシガン大学を卒業されて、本学で教鞭をとることになりました。生前、ご自身が世田谷区野毛町に所有されていた敷地809坪を本学に寄付されて、人間社会学部が新設される際の経費に当てられたとのことです。このことを永く顕彰するために、西生田キャンパスの中央森林は水田名誉教授の名を冠することになったのです。私たちはキャンパス統合に当たり、この事実を永く記憶しなければなりません。

日本女子大学の各学部、大学院の各研究科は2021年4月以降、創立の地である目白キャンパスに揃い、文理双方を学べる総合大学として、学生・院生が主体的に学びを深めることができる環境を整えます。新型コロナウイルス禍は依然続いています。図書館を含め日本女子大学はキャンパス統合に向けて一歩一歩着実に進んでいかねばならないでしょう。(図書館長・史学科教授)

西生田図書館三十周年および閉館にあたって

飯山 智子

西生田図書館は、2020年で開館まる30年を迎えた。そして2020年度末、人間社会学部の目白キャンパスへの移転とともに31年間の幕を閉じることになる。これまで『図書館だより』では、10周年、20周年と10年ごとの節目にそれまでの10年間を概観した。『図書館だより』20周年記念号(No.139: 2010年11月15日発行)では、初期10年の苦労を振り返ってその時期を「発展と充実」と表現し、その後の10年は安定しつつも変化があった時期と述べている。今回は、その後の近年10年間を中心にこれまでを振り返ってみたい。

○開館日数・開館時間の推移

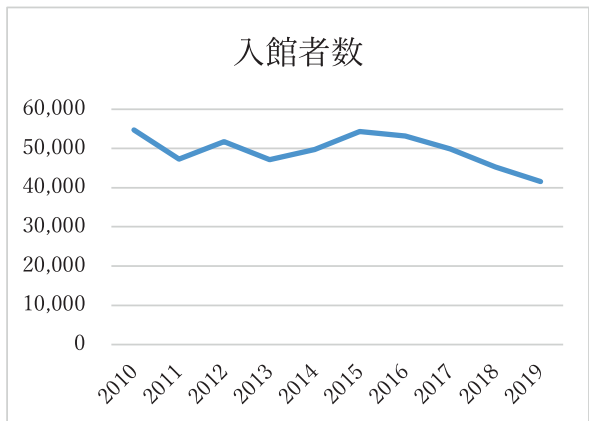
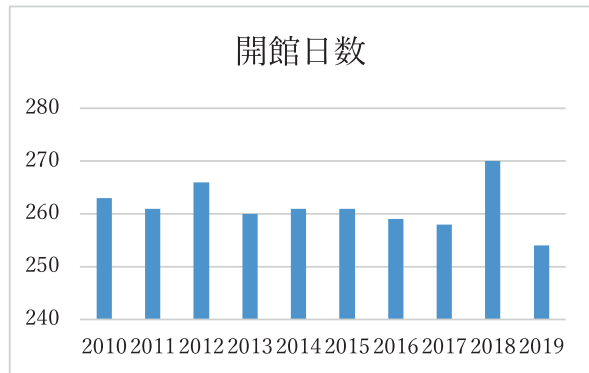
開館から20年間に、先人たちは開館日数・開館時間数を少しずつ増やす努力をしてきた。その甲斐あってこの10年は開館日数も時間も安定した。それ以前の年間開館日が最大でも246日(2009(H21)年度)だったのに比べ、2010(H22)年度からの10年間は大幅に増加し、ほぼ260日が確保できるようになった。10年間のうち260日に達しなかったのは3回のみ。最少でも2019年度の254日であった。

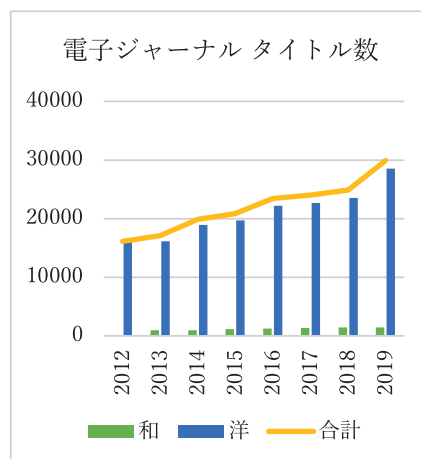
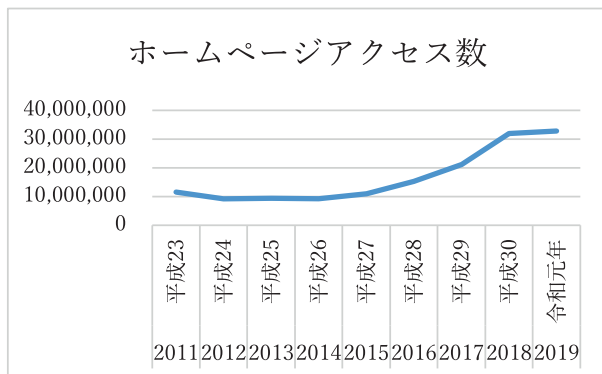
この10年の特徴は、2011年3月11日の東日本大震災の発生に始まり、社会生活に大きな影響を与えるような台風や大雪の来襲が増加するなど、天災による閉館への要因が多くなったことである。2019(R1)年度に開館日が減少したのも、複数の台風の影響で閉館した日が多かったためである。

開館時間については、2010(H22)年度に平常期(月～金)9:00～20:00、(土)9:00～18:00の開館が実現した。これにより、利用者にはわかりにくかった開館時間のパターンを次の3種類に単純化することができた。授業期間(月～金;9:00～20:00, 土;9:00～18:00)、授業なし期間(月～土;9:00～18:00)、長期休暇期間(月～土;9:30～18:00)である。

○入館者数

2005(H17)年度まで毎年5万人を超えていた入館者数は、2006(H18)年度に4万人台まで割り込んだ。2008(H20)年度～2010(H22)年度に5万人台へ戻ったものの、2010年度からの10年間は4万人～5万人台を歩き来している。2015(H27)年度の約5万5千人が最高で後は緩やかに減少し、2019年度はかろうじて4万人を超えた数に留まった。オンライン・データベースや電子ジャーナルの普及などにより、非来館型の利用が多くなったことが一因と考えられる。このことは10年間でホームページアクセス数が増加したことからもうかがえる。2018(H30)年度より集計方法の変更があったが、近年に非常に増加したのはグラフにもはっきりと表れている。

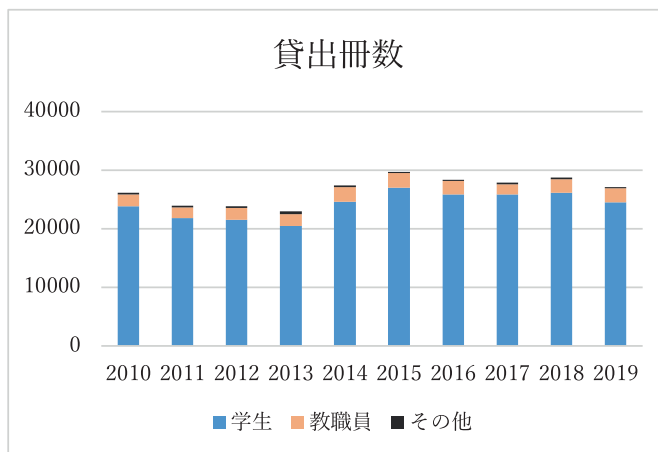




○貸出冊数

2011 (H23) 年度～2013 (H25) 年度は貸出は年間2万～2万5千冊と、それ以前の数年と同様横ばいだったが2014 (H26) 年度に増加した。この年から学部生の貸出冊数を5冊から8冊へ増加，貸出日数を1か月から21日間とした。一人当たりの貸出可能冊数が増加し貸出期間が短縮されたために本の回転率がよくなり，貸出冊数が増加したと推察される。

30年間の貸出冊数にそれほど変化はない。開学後4学年がそろそろ前こそ年間1万冊台だったが，4学年になった1993 (H5) 年度は22,947冊になった。それ以降は31,167冊 (1997 (H9) 年度) が最高であり最低でも21,162冊 (2008 (H20) 年度) である。2019 (R1) 年度は27,127冊であり，30年間の年間平均貸出冊数は約2万5千冊となっている。開館日数や入館者数の大きな変化にも関わらず，貸出は30年間で極端な増減なく行われていた様子がわかる。



○30年を振り返って

1990年に人間社会学部の新設とともに開館した西生田図書館は，館員3名での出発であった。蔵書数は少なく利用環境も整えながらの状況の中，新学部での教育研究に意欲的な先生方や熱意にあふれた学生たちからの要求は高く，それに懸命に応えながらの10年であった。館員は2000 (H12) 年度に8名になった。おかげでその後，開館時間の延長や学生向け資料検索講習会などサービスの様々な要望や課題が実現した。2009 (H21) 年度よりカウンターに業務委託が導入されたこともあり館員数は減員された。その中でよりよいサービスを目指し今日までその提供に努めてきたつもりである。

2021年4月からは西生田図書館は保存書庫となり資料保管が主となるが，目本の図書館との連携を続けながら新たな役割を果たしていきたい。
(西生田図書館課長)

西生田図書館との出会い

中西 裕二

私が本学に赴任したのは、東日本大震災が起きた2011年5月だった。震災の影響で始業が1ヶ月ほど遅れ、研究室の引っ越しも4月下旬。前任校の研究室や図書館がけっこうモダンで新しかったので、私の割愛のため前任校にいらしていただいた文化学科の山田忠彰先生と、当時学部長だった片桐芳雄先生に「西生田の校舎は山の上だし、こんなお洒落な建物じゃないけど、いいの？」と念を押されたことを覚えている。

赴任してみると、確かに、西生田キャンパスの校舎や研究室はお世辞にもピカピカとか、モダンとは言い難かった。しかし、研究室が広いという長所もあった。何より良かったのが、西生田図書館が研究室のある九十年館A棟に隣接していた点である。私の研究室は3階だが、1階下りればもう図書館の入口である。ドア・ツー・ドアで1分という近さだ。

本学に転任前だが、校務でベルギーの大学を訪問した時に見た、キャンパス内の図書館の位置が印象に残っている。図書館はキャンパスのほぼ中央に位置し、教員の研究室も図書館と同じ棟にあるのだ。教員の研究、そして学生の教育を考えると、確かにこれが理想型だが、日本ではあまりお目にかからない配置だ。ただ、西生田キャンパスのA棟と西生田図書館の位置は、私の考えるほぼ理想的な配置で、赴任してその利便性の良さを改めて実感した次第である。

本好きな学生の中には、西生田図書館のファンもいる。教え子の中には、目白の新図書館は確かに開放的で綺麗だが、本を読むには古くて薄暗い西生田の方が絶対に良い、と言う学生もいた。私も西生田の研究室の、古くて薄暗く、本が雑然と整理されない状況を割と気に入っている。新しい発想は、実はこういう場所から生まれるのでは、と最近つくづく感じている。（文化学科教授）

西生田図書館の思い出

黒岩 亮子

私は西生田キャンパスの3期生（現代社会学科卒）である。当時のキャンパスには、自分達の手で新しい大学を創り上げるのだ！という熱気のようなものが溢れていたような気がする。優秀な大学院生、澆刺とした先輩、学びの意欲に満ちた社会人の同級生に大いに刺激を受ける日々でもあった。学科の学生は定員の2倍近くいたせいとか、授業が行われる教室は常に満員で、希望するゼミに入るのも一苦労だった。「女子大生ブーム」の名残もあり、華やかな学生も多かった。サークルのコンパ、合コン、彼の話。食堂でだべってはそんな話に興じていたのだが、息苦しさを覚えることもあった。そんな時に私は図書館に行くことにしていた。西生田図書館はいつも静謐で穏やかな時間が流れ、一人になれる空間があることもありがたかった。英語の新聞を読んだり、学術書をパラパラめくる落ち着いた時間は、日常の疲れからホッと解放されるひと時であったのかもしれない。閲覧席にはうちの学科の子だなどと思う学生もいて、次第に言葉を交わすようになり、いつものメンバーとは違う交友関係も広がった。図書館は日常生活とは少しだけ違う、自由な空気が流れている。きっと今も変わらずに、図書館で自分自身を取り戻している学生もいるのではないだろうか。

忘れられないのは、今は亡きY助手さん（社会福祉学科卒業生）と共に、社会福祉学科の歴史を掘り起こすべく、図書館の1階で古い資料を探して過ごした時間だ。亡くなる直前に社会福祉の歴史に関する素晴らしい本を書き上げたYさんは、貴重な資料を見つけると興奮して私に教えてくれ、それを宝物のように大事にしていた。Yさんの姿に本来の研究者のありようを教えられると共に、先人たちの努力が積み重ねられたこの大学で、今出来る精一杯のことをしたいという思いを持つようになった。そのことをとても感謝している。（社会福祉学科准教授）

日本女子大学西生田図書館関係略年表 (2010.10～2020.3)

<p>2010 (平成22) 年度 開館日数：263日 入館者数：54,725人</p>	<p>10/30 台風14号接近のため16時で閉館。1/12 玄関ホール展示「人間社会学部開設20周年記念—開設の頃を振り返る—その2」(3/25迄)。3/11 東日本大震災発生。3/14 安全確認及び資料等復旧作業のため臨時閉館 (3/22迄)。3/23 限定開館開始 (3/25迄)。</p>
<p>2011 (平成23) 年度 開館日数：261日 入館者数：47,261人</p>	<p>4/1 新図書館システム (富士通 iLiswave-J V2) 本稼働。4/4 開館・貸出開始 震災による開館時間短縮 (4/23迄)。My JWULIS 運用開始。4/21 1年次オリエンテーション (人間社会学部) 図書館長の話 鳥崎館長。図書館オリエンテーション スライド上映・館内案内。4/25 夜間開館開始、震災による夜間開館時間短縮 (5/7迄、目白の土曜日のみ平常時間)。4/27 春休み貸出図書返却期限 (学事日程 (授業開始日) の変更に伴い4/12から変更)。5/6 心理学科ゼミガイダンス1回、以後現代社会学科1回、社会福祉学科3回、教育学科4回、心理学科2回、文化学科1回。5/9 夜間平常開館開始。6/27 資料検索講習会 (7/29迄)。7/28 附属中学生2名職業体験。8/6 オープンキャンパス図書館施設見学285名来館。8/15 夏季節電対策のため閉館 (8/19迄)。9/21 台風15号接近に伴う休講 (3時限目以降) をふまえ13時30分で閉館。10/3 資料検索講習会 (10/28迄)。10/19 事務用パソコン更新。11/1 お茶の水女子大学附属図書館との相互利用協定施行。2/13 玄関ホール展示「上代タノ平和文庫創設40周年記念展」。2/20 蔵書点検 (2/24迄)。</p>
<p>2012 (平成24) 年度 開館日数：266日 入館者数：51,733人</p>	<p>4/3 開館、貸出開始、悪天候のため開館時間短縮 (13時30分閉館)。4/4 入館管理システム入替 (図書館システムとの自動連携機能) 始動 (西生田3/28入替)。1年次オリエンテーション (人間社会学部) 図書館長の話 鳥崎館長。図書館オリエンテーション スライド上映・館内案内。4/27 心理学科ゼミガイダンス1回、以後、現代社会学科1回、社会福祉学科6回、教育学科3回、心理学科2回。5/21 資料検索講習会 (7/13迄)。6/19 台風4号の接近のため開館時間短縮 (19時閉館)。7/18 西生田キャンパス部会に「西生田キャンパスの将来活用における図書館スペースについて (お願い)」文書を提出。8/5 オープンキャンパス図書館施設見学271名来館。9/19 利用者用カラー複写機入替 (西生田2階)、カラー料金値下げ (フルカラー50円→30円、単色・2色50円→10円)。2/19 蔵書点検 (2/25迄)。3/29 1階マイクロリーダ・プリンタ入替。</p>
<p>2013 (平成25) 年度 開館日数：260日 入館者数：47,153人</p>	<p>4/2 開館・貸出開始。学園関係者の閲覧利用開始 (附属高等学校・中学校の生徒、附属校園の在学生・園児の保護者、泉会会員 (4月：大学から発送のカード到着後より)、目白会会員 (7月：大学から発送のカード到着後より))。4/3 1年次オリエンテーション (人間社会学部) 図書館長の話 鳥崎館長。図書館オリエンテーション スライド上映・館内案内。4/6 悪天候のため開館時間短縮 (閉館時刻変更18時→15時)。4/19 心理学科ゼミガイダンス1回、以後授業内の講習会を11回実施。5/13 資料検索講習会 (7/12迄)。6/10 川崎市多摩区民の閲覧利用開始。8/4 オープンキャンパス図書館施設見学 249名来館。9/3 1階6連複式書架1本設置。10/1 日本女子大学学術情報リポジトリ試験公開開始。10/16 台風26号接近に伴う全日休講をふまえ臨時閉館。10/22 Web 版利用者アンケート「LibQUAL+」回答開始 (当初終了予定11/21、延長して11/28迄実施)。2/14 大雪に伴い開館時間短縮 (西生田閉館時刻18時→17時30分に変更)。2/19 蔵書点検 (2/25迄)。3/3 利用者用パソコン更新 (西生田、運用3/5開始)。3/12 4階空調不調、2つのコンプレッサーのうち1台のみ運転再開、1台は要修理(3/17修理実施)。3/31 Web 版利用者アンケート「LibQUAL+」結果報告 (詳細) を図書館ホームページに掲載。</p>
<p>2014 (平成26) 年度 開館日数：261日 入館者数：49,701人</p>	<p>4/1 日本女子大学学術情報リポジトリ一般公開開始。4/2 開館・貸出開始。通学課程学部学生の貸出規則改正 (冊数5冊→8冊、期間1ヶ月→21日間)。密閉できる容器に入った飲み物に限り閲覧室での水分補給可とする。4/3 1年次オリエンテーション (人間社会学部) 図書館長の話 鳥崎館長。図書館オリエンテーション スライド上映・館内案内。玄関ホール展示「『The Canterbury Tales』(エルズミア・チョーサー写本・複製版)」(5/31迄)。4/8 参考カウンター夜間受付を今年度から中止。4/28 心理学科ゼミガイダンス1回、以後現代社会学科4回、福祉学科6回、教育学科1回、心理学科3回、文化学科3回。5/14 大学院生の Web からの文献複写受付開始。5/30 資料検索講習会 (7/4迄、以後7/10～12/18まで毎週木曜日に通年開催 (申込制))。6/11 Web 版利用者アンケート「LibQUAL+」結果に対する回答を図書館ホームページに掲載 (以後7/29、10/3、10/16、1/19、3/20更新)。6/12 3階北西角の天井付近の壁が剥離、修理。6/23 玄関ホール展示「軽井沢—108年めの高原の夏—」(9/20迄)。7/17 玄関ホール掲示板に図書のカバー・帯等を展示する新书推荐紹介コーナー開始。7/31 参考カウンター長期休暇期間の受付時間を今年度から短縮 (12:30～16:30)。8/3 オープンキャンパス図書館施設見学261名来館。8/9 1階～4階の階段・踊り場カーペット張替え (8/10迄)。10/1 国立国会図書館「図書館向けデジタル化資料送信サービス」利用開始。10/6 台風18号接近に伴う全日休講をふまえ臨時閉館。1階ドライエリアから浸水、1階廊下側キャレル上天井より漏水。</p>

<p>2014 (平成26) 年度 開館日数：261日 入館者数：49,701人</p>	<p>11/4 暖房機故障 (11/5修理)。11/19 文書「西生田キャンパスの将来活用における図書館スペースについて (再度のお願い)」を館長から学長・理事長, 西生田キャンパス・教育構想部会長に提出。12/1「日本女子大学学術情報リポジトリ運用指針」施行。12/2 玄関ホール展示「もうすぐ冬ごもり:クマのおはなし」(12/24迄)。1/30 玄関ホール展示「雛人形の雅な世界」(3/3迄)。2/9 2階閲覧室にJASMINE Wireless 設置。2/17 蔵書点検 (2/23迄)。3/20 玄関ホール展示「『The Canterbury Tales』(エルズミア・チョーサー写本・復刻版)」(4/30迄)。</p>
<p>2015 (平成27) 年度 開館日数：261日 入館者数：54,359人</p>	<p>4/2 開館・貸出開始。4/3 1年次オリエンテーション (人間社会学部) 図書館長の話 平館館長。図書館オリエンテーション スライド上映・館内案内。4/24 教育学科ガイダンス 1回, 以後 現代社会学科 4回, 社会福祉学科 8回, 教育学科 4回, 心理学科 3回, 文化学科 2回。5/9 学術交流企画「大学図書館の Vision—「自学自動」と学修支援」目白キャンパスで開催 (日文学科との共催)。7/6 玄関ホール展示「みんな, こんな本を読んでいる—2014年度貸出回数上位の本」(9/10迄)。7/22「教員が学生に薦める本」の掲示開始。8/8 オープンキャンパス図書館施設見学344名来館。9/7 住居学科学生によるバリアフリー調査。9/25 玄関ホール展示「広岡浅子と日本女子大学」(3/28迄)。11/19 西生田キャンパス・教育構想部に「キャンパス統合後の西生田キャンパス活用における図書館スペース確保のお願い」を提出。1/12 空調設備故障・調整, 以後不調。1/18 大雪の影響による 1, 2 限目の授業休講に伴い開館時間短縮 (開館時刻を12時30分に変更)。1/28 後期学生総会要望書への回答提出。2/16 蔵書点検 (2/22迄)。3/31 利用者用複写機 (オーエーリックス設置), 利用が少ないため 2階の 1台撤去。</p>
<p>2016 (平成28) 年度 開館日数：259日 入館者数：53,123人</p>	<p>4/2 開館・貸出開始。4/5 図書館オリエンテーション 図書館内自由見学239名参加。4/9 利用者用複写機への JASMINE 端末からの出力設定・運用開始。4/22 図書館内事務スペースの空調設備入替工事。4/24 教育学科ガイダンス 1回, 以後現代社会学科 2回, 社会福祉学科 9回, 教育学科 4回, 心理学科 1回, 文化学科 1回, 留学生 1回。4/30 図書館内閲覧スペースの空調設備入替工事 (4/30・5/2臨時閉館)。6/1「教員が学生に薦める本 (コメント付き)」依頼文書を教員各位に配布 (以後毎年実施)。6/21 泉ラーニング・スペース (西生田) 開所式開催, 利用開始 (10/3ラーニング・サポーターによる学修相談受付を開始)。6/29 図書館内 (1階, 3階, 4階) に JASMINE-Wireless 設置。8/7 オープンキャンパス図書館施設見学309名来館。8/22 台風 9号接近に伴う通学課程集中授業休講をふまえて臨時閉館。9/12 キャンパス統合後の蔵書収容計画検討のため館員による図書館内書架の設置・使用状況調査。研究室の書架数調査 (9/14~9/29)。10/8 3階から 4階への踊り場付近で天井より漏水 (以後10/29)。10/16 泉ラーニング・スペース (西生田) を泉会役員等が見学。10/21 横浜富士見丘学園27名が図書館見学。2/8 後期学生総会要望書への回答提出。2/15 蔵書点検 (2/21迄)。</p>
<p>2017 (平成29) 年度 開館日数：258日 入館者数：49,933人</p>	<p>4/3 開館・貸出開始。4/5 新入生オリエンテーション (人間社会学部: (午前) 5学科各控室で図書館説明, (午後) 図書館内見学ツアー・自由見学235名参加)。4/28 教育学科ガイダンス 1回, 以後 現代社会学科 3回, 社会福祉学科 7回, 教育学科 2回, 心理学科 1回, 文化学科 1回。6/14 玄関ホール展示「西生田「教員が学生に薦める本」の関連本」(9/18迄)。6/20 川崎市立川崎高等学校キャンパス見学の際に西生田図書館見学 6名。7/10 3階照明の一部点灯せず, 配電盤修理 (7/14)。7/18 住居学科定行研究室によるキャンパス空間の利用に関する調査 (以後10/11, 12/1)。8/5 オープンキャンパス図書館施設見学284名来館。9/27「キャンパス統合後の西生田図書館所蔵図書 (研究教育経常費等購入分) の配置について」(図書リスト添付) を人間社会学部長, 同学部各学科長及び各学科中央研究室に配付。10/23 荒天のため学内便運行中止。10/25 1階廊下側キャレル付近のカーペットに, 天井からの雨漏りによる水濡れあり。10/28 本学契約データベース等の学外から利用 (EZproxy サービス) 開始。11/7「キャンパス統合時に研究室所蔵を希望される西生田図書館所蔵図書について」を人間社会学部長, 同学部各学科長及び各学科中央研究室に配付。11/11 キャンパス見学会における西生田図書館見学20名。11/14『週刊読書人』書評キャンパス (学生対象) の募集開始。12/1 玄関ホール展示「『アレクサンデル六世 クリスマスマサ典礼書』ファクシミリ版」(12/21迄)。1/22 大雪のため開館時間短縮 (閉館時刻20時を18時30分に変更)。2/6 電動集書架ケーブル取り換え修理及び定期点検。2/14 蔵書点検 (2/20迄)。</p>
<p>2018 (平成30) 年度 開館日数：270日 入館者数：45,256人</p>	<p>4/2 図書館システム更改 (iLiswave-J V3) 本稼働。4/3 開館・貸出開始。4/5 新入生オリエンテーション (人間社会学部: (午前) 5学科各控室で図書館説明, (午後) 図書館内見学ツアー・自由見学186名参加)。4/17 泉ラーニング・スペース用ノートパソコン 5台増設。4/19 社会福祉学科ガイダンス 1回, 以後 現代社会学科 2回, 社会福祉学科 5回, 教育学科 3回, 心理学科 1回, 文化学科 1回。1階複写機モノクロ専用からカラー複写可能機へ入替。5/2 和装本蔵書点検 (5/25迄)。7/22 オープンキャンパス図書館見学253名来館。7/28 台風12号の影響により開館時間短縮 (閉館時刻18時を13時に変更)。8/6 キャンパス統合時の西生田蔵書受入のための目白の蔵書外部倉庫委託 (3,500箱) 作業開始 (目白9/14迄)。8/8 台風13号の影響により開館時間短縮 (閉館時刻18</p>

<p>2018 (平成30) 年度 開館日数：270日 入館者数：45,256人</p>	<p>時を16時30分に変更)。8/9 台風13号の影響により終日閉館。9/4 台風21号の影響により開館時間短縮（閉館時刻18時を16時30分に変更）。10/1 台風24号接近に伴う休講のため開館時間短縮（開館時刻9時を12時30分に変更）。10/23 国本女子高等学校キャンパス見学の際に西生田図書館見学30名。11/14「キャンパス統合後の西生田図書館所蔵継続購入雑誌（研究教育経常費等購入分）の配置について」を人間社会学部長、同学部各学科長及び各学科中央研究室に送付し検討を依頼（回答期限12/14）。1/7 春休み貸出開始（移転に伴う目白図書館長期閉館をふまえ、貸出冊数増、貸出期限延長）。2/4 移転のため目白図書館閉館（目白4/2迄）、蔵書等の移転作業開始（目白3/22迄）。目白閉館のため土曜日開館9：30～18：00（西生田、2/9 2/23 3/2 3/9 3/16 3/23）。2/13 蔵書点検（2/19迄）。</p>
<p>2019 (令和元) 年度 開館日数：254日 入館者数：41,568人</p>	<p>4/1 新図書館オープニングセレモニー、定礎式開催（目白）。4/2 開館・貸出開始。玄関ホール展示『The Canterbury Tales』（エルズミア・チョーサー写本・復刻版）（5/11迄）。4/4 新入生オリエンテーション（人間社会学部：(午前) 5学科各控室で図書館説明、(午後) 図書館内見学ツアー・自由見学155名参加）。4/18 社会福祉学科ガイダンス1回、以後 現代社会学科3回、社会福祉学科6回、教育学科3回、心理学科1回。7/1 図書館公式 Twitter 運用開始。7/6 キャンパス見学会図書館施設見学 約80名来館。7/20 キャンパス見学会図書館施設見学。8/14 利用者用パソコン更新。8/28 事務用パソコン更新。9/9 台風15号の影響による集中授業休講に伴い終日閉館。10/12 台風19号の影響による休講に伴い終日閉館。10/14 台風の影響で1階天井・2階天井より雨漏り跡あり。11/11 不測の事態によるキャンパス立入禁止に伴い開館時間短縮（閉館時刻20時を14時に変更）。12/13 泉ラーニング・スペース（西生田）ミニ講座第1回、以後 第2回1/29。2/12 図書館蔵書点検（2/18迄）。</p>

付記 「図書館年次報告」等を参考にして略年表を作成した。

(飯山智子, 渡辺圭)

180万人の手から手へ

吉原三紀子

学術書を中心とする大学図書館なので、ある図書に貸出が殺到することは少ない。むしろ卒論のために出会った一冊を大事に抱え、一年間貸出と返却を繰り返して利用する姿も多い。そうとは知りながらも西生田図書館のカウンターに長らく座っていた者としては、何人もが手に取った西生田図書館本たちの顔ぶれを振り返りたくなった。

貸出回数ならダントツで「指定図書」である。その中でも、『日本十進分類法』（請求記号014.45-Mor）は『日本目録規則』（014.32-Nih）と並んで30年と半年を通じて最も利用者とカウンター係の手を経た図書に間違いない。司書課程の授業後、返却カウンターに積み上がる分類法に「ああ、月曜日」（当時）と感じたものである。

以下、節目の年で振り返る。1990年は人間社会学部一年目。浅野八郎著『絵でわかる心理学：不可思議な心の秘密をさぐり出す』（日本実業出版社、1989年）（140.4-Asa）が一年を通して貸し出された。人間社会学部1年生らしい。小島蓉子編著『社会リハビリテーション』（誠信書房、1978年）（369.27-Sha）こちらを貸出して手渡すとき、学生の意気込みを感じたものだ。年上の社会人学生に「次年度にどんな授業があるのかわからないので学習の計画が立てられない」とその熱意に圧倒された。

2000年。問いはいつも不意を突く。「障がい者が書いた本を読みたいのですが。」頭の中をぐるぐる巡らせた答えが乙武洋匡著『五体不満足（ごたいふまんぞく）』（講談社、1998年）（369.27-Oto）。後から「ヘレン・ケラーを忘れていた」と真っ青になって真っ赤になった。今なら当事者による著作を多数案内できそうだが、あの20世紀最後の年に他にどのくらいあったらうか。

2010年。2007年に学生が読みたい本が開始され、2009年に紺色お揃いエプロンの笑顔が貸出カウンターに並ぶ。このあたりから西生田図書館内が手作りのアートでデコラティブに進化していくのであった。大沢真知子、原田順子編著『21世紀の女性と仕事』（放送大学教育振興会、2006年）（366.38-Nij）、日本ジェンダー学会編『ジェンダー学を学ぶ人のために』（世界思想社、2000年）（367.2-Jen）が多く貸し出された。今思えば働き方改革が提唱されるほんの少し前だ。当時の女子

大学生はどんな思いで手に取ったのだろう。そして3月11日はこの年度末。書架から吹っ飛んで山となった本の下に人がいないか、大声で周った。半ベソで。

2019年。レイ・オルデンバーグ著、忠平美幸訳『サードプレイス：コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」』（みすず書房、2013年）（361.78-Old）、市川伸一編著『学力と学習支援の心理学』（放送大学教育振興会、2014年）（371.4-Gak）、遠藤英樹、寺岡伸悟、堀野正人編著『観光メディア論=Tourism & media』（ナカニシヤ出版、2014年）（689-Kan）と、昨年度人気の3冊を手にとってちょっと驚く。2020年秋コロナ禍の今まさに誰もが模索している、人が人を支える本質、をいずれの図書も教えてくれる。3密を避けるため実際に手を取り合うことは難しいけれど、支援はできるのだ。何とも人間社会学部らしい。

さて、1990年4月10日（火）の開館から2020年9月末現在で、延べの開館日数7,329日間、貸出冊数758,171冊、そして入館者数1,824,683人。たくさんの方が図書を大切に手にしてくれたことに感謝いたします。2021年度に西生田図書館は保存書庫となります。次の手へ、大切に渡します。

（西生田図書館課 館員）

2020年度夏期スクーリング期間中の図書館（目白）利用について

2020年度は特異な年となった。新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため図書館は4月3日より臨時閉館し、6月8日から本学の学生（事前申込制）・教職員対象の限定開館を開始した。通学生の前期授業だけでなく、通信生にとって貴重な夏期スクーリングの対面授業がオンラインによる遠隔授業となった。他府県では6月19日に県外への移動自粛が解除され、Go to Travel キャンペーンが開始される中、東京都は感染者数が多いことからキャンペーン対象外とされ、小池都知事は最も

最近3年間の利用状況

	2020	2019	2018
開館日数	15	21	21
入館者数	528	2938	3069
1日平均	35	140	147
最高	55	187	276
最低	21	107	92
登録者数	0	71	76
1日平均	0	4	4
更新者数	10	133	135
来館率（%）	1.2	29.0	30.0
貸出冊数	78	599	784
1日平均	5	29	38
最高	23	63	71
最低	0	10	11
受講者数	676	717	707
一般学生・教職員・その他の貸出	492	951	1098
1日平均	33	46	53

も深刻な「感染が拡大していると思われる」という判断を維持、シェアハウス、寮、職場での感染が報告され、東京都民の旅行・帰省、東京を目的とする旅行・帰省を自粛するよう要請していた。2020年度の通信教育課程夏期スクーリングはそのような中で実施された。

今年度のスクーリング中の新規登録者数は0名で更新者は学部正科生10名であった。統計類も近年とは比較できない数値である。図書館は限定開館を持続し、来館者に便宜を踏むため、図書の保留期間の延長を行い、一般図書が通常3開館日から7開館日、通信図書が1開館日から7開館日に延長している。9月になり通学生の後期授業も原則遠隔授業となったため、図書館は現在も前日までに事前申請が必要な限定開館を続けている。早く日常に戻ることが望まれる。

（館員・閲覧係 中澤啓子）

編集後記 西生田図書館は来年4月以降、来館しての利用はできなくなるが、引き続き保存書庫として活用されることになっている。今号では、開設以来の30年、特に直近の10年間について様々な立場から振り返っていただいた。未だ新型コロナの渦中ではあるが、西生田からの資料移転の準備も着々と進んでいる。全ての学園構成員が新たなキャンパスで元気に再会できることを願ってやまない。（浜口）